令和６年度　埼玉県高等学校ＰＴＡ連合会　生徒指導専門委員会研修会　　参加報告

日　時：　令和６年１１月５日(火)
会　場：　埼玉会館　小ホール
参加者：　教育環境部２年　清宮・仲野

研修次第

１．開会のことば　　埼玉県立八潮南高等学校ＰＴＡ理事　井上　琴映　様

２．開会行事

（１）委員長あいさつ　　埼玉県立八潮南高等学校ＰＴＡ会長　臼井　繁樹　様
（２）指導者講評者紹介
（３）発表者・校長の紹介

３．研究協議

（１）実践発表

東部支部：埼玉県立春日部工業高等学校　ＰＴＡ会長　黒岩　義彦　様
・テーマ【生徒を支援するＰＴＡ】
　開校６０周年記念春工祭の中で、ＰＴＡと生徒会からのプロジェクト委員会によるマスコットキャラクター作成について、生徒会担当者や先生方と企画や意見交換を行い、また、令和６年９月に生徒と保護者に心を育むコミュニケーションに関するアンケート調査を行っている。ＳＮＳによるコミュニケーションが上位であり、今後、どう対応するか検討が必要だと考えている。 ＰＴＡの活動は、全員が副会長でありできる人ができるだけ、楽しく活動することにより、引き続き子供たちの健全な育成に尽力していく。

西部地区：埼玉県立新座高等学校　ＰＴＡ会長　飯野　愛　様
・テーマ【笑顔で過ごせる環境づくりと生徒指導 】
　学校が最寄駅からバスで１５分かかるため、自転車通学が６５％を占めており、スマホやイヤホンの「ながら自転車運転」の指導や遅刻改善ラリーカードの活用により自ら改善していくよう取り組んでいる。 また、今年は保護者と生徒が交流できる機会として、文化祭でＰＴＡによる縁日を開催した。 ＰＴＡは、できる人ができる時にできることを！をモットーとしており、会計などの特別な役職以外は全員「副会長」とし、一部の人に負担がかからず参加しやすい体制や会議の開催日数の見直しなどを進めている。

南部地区：埼玉県立浦和商業高等学校　ＰＴＡ会長　萩原　牧恵　様
・テーマ【安心安全で豊かな心を育む教育環境の整備について】
　ＰＴＡは理事の数を固定せず、アンケート等でＰＴＡ活動への協力の確認を行い、その中からの選出のため、少ない人数の場合もあるが、その中で最大限の活動を行っている。 今年度は、台風などの際に迅速な対応をするため保護者連絡網の作成を行い、体育祭での生徒への声かけや正門から事務室までの植栽など教育環境の整備に取り組んだ。

北部支部：埼玉県立小鹿野高等学校　ＰＴＡ会長　齋藤　祐美　様

・テーマ【生徒減少と組織改編を経てＰＴＡができること～地域との連携を目指して～ 】

全校生徒１１２名で生徒数が減少しており、山村留学制度がある。

生徒減少によりＰＴＡの支部数を減らしているが、朝の登校指導や文化祭などの巡回や模擬面接の面接指導など、人数が少ないからこそ、地域、学校、保護者の連携により地域全体で生徒たちを見守っていく体制をつくるため、工夫をして活動をしている。

（２）質疑応答

①埼玉県立越谷総合技術高等学校　ＰＴＡ書記　様

春日部工業高等学校でマスコットの応募を集めるための対策は何か。

【回答】埼玉県立春日部工業高等学校　ＰＴＡ会長　様

クラス単位での応募や採用された場合商品券（３万円）を用意した。

②埼玉県立川口工業高等学校　ＰＴＡ会長　様

新座高等学校では通学で自転車の割合が６５％だがヘルメットの着用率はどれくらいか。

【回答】埼玉県立新座高等学校　校長　様

ヘルメットは髪型がくずれるなどの理由から、ほとんど着用されていない状況である。

③埼玉県立大宮高等学校　ＰＴＡ会長　様

全員副会長という体制はいつから行っているのか。

【回答】埼玉県立春日部工業高等学校　ＰＴＡ会長　様

だいぶ前からであり、できる人ができる分、少しずつ参加できるよう取り組んでいる。

（３）講　　評

①埼玉県教育局市町村支援部生徒指導課　指導主事　山田　裕美　様

学校ごとに特色を生かした生徒指導の取り組みを行っている。埼玉県の生徒の問題行動調査においても、社会の急激な変化により生徒の悩みも多様化しており、いじめや不登校が増加している。 不安や悩みについて今までの対応だけでなく、今後どう対応するべきかが課題である。

②埼玉県教育局市町村支援部生徒指導課　副課長　上遠野　健　様

問題行動調査でもいのちに関わる事案も増えている。進路や人間関係など、さまざまな悩みがあるが大人があたたかく見守ることが大切である。何か不安があったら、学校や相談機関などに相談してほしい。これからもあたたかく見守るよう支援をしていただきたい。

４．情報提供　　埼玉県高等学校ＰＴＡ連合会　事務局　川田　清隆　様

ハイスクール２４の保険については、ＰＴＡ連合会に加入する人が任意で加入する保険のため、ＰＴＡに加入されない人は対象とならないため、注意いただきたい。

５．閉会のことば　　埼玉県立八潮南高等学校ＰＴＡ理事　斉藤　晴美　様

所　　感

地域や学校の特性などにより、ＰＴＡのあり方もさまざまで、それぞれ工夫をして活動をしていると感じた。 また、どの学校でもＰＴＡ活動への疑義があることや人数の確保が難しい点は共通していた。 生徒数の減少に伴いＰＴＡの人数減少やＳＮＳなどの普及によりＰＴＡの形はこれからも多様化していくと思う。スマホでなんでもできる便利な時代だからこそ、ＰＴＡ活動などを通して、子どもたちと直接関わり合う機会の必要性を感じた。　　（文責　教育環境部）